33 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2020年12月20日号　　編集／毎日新聞社販売局D.クリエーションセンター

第100回全国高校ラグビー大会開幕　26日（土）＝特集面

第100回全国高校ラグビー大会は27日、東大阪市花園ラグビー場で開幕し、1月9日の決勝まで熱戦を繰り広げます。開幕を前に史上最多63校の選手の顔ぶれを紹介します。昨年のワールドカップ日本大会で日本代表主将を務めたリーチ・マイケル選手のインタビュー記事も掲載。新型コロナウイルスの影響下で大舞台に臨む高校生ラガーマンへメッセージを届けます。大会中は選手たちの白熱したプレーに込めた思いを伝えます。

「テレワークで労災認定も・企業アンケートから」

24日（木）＝くらしナビ面

新型コロナウイルスの感染が拡大した今春以降、テレワーク（在宅勤務）の間にけがをし、労働災害（労災）となる事例が生じています。毎日新聞が主要企業126社にアンケート調査をしたところ、労災認定を受けたり、メンタルの不調を訴えたりする従業員がいたケースが確認されました。各企業で急速に普及が進むテレワークが抱える課題について考えます。

特集ワイド　コロナ禍で揺らぐ死生観

23日（水）＝夕刊特集ワイド

新型コロナウイルスの猛威が世界中で多くの命を奪い、死という言葉が身近に感じられるようになりました。今年9月に88歳で他界した上智大名誉教授でカトリック司祭のアルフォンス・デーケンさん=写真=は、日本に「死生学」を根付かせた功労者であり、「死」をもって「生」を考えるきっかけを作った人でもあります。デーケンさんが残した言葉を手がかりに、宗教学者の山折哲雄さん、島薗進さんがコロナ禍で揺らぐ死生観を読み解きました。

戦後75年企画「民間人が見た戦地」

23日（水）より＝総合面

今月8日で開戦から79年を迎えた太平洋戦争では、日本陸軍・海軍の兵力や労働力を補うため、多くの国民が軍に雇われ、戦地に動員されました。その中には、若い女性や少年、日本軍が侵略した東南アジアの人もいました。戦後75年の終わりに、軍人とは異なる形で「戦力」に組み込まれた民間人らの証言に耳を傾け、過去に改めて向き合いたいと思います。

【写真】米軍に沈められた輸送船「日鉄丸」の写真を手に当時を振り返る元船員の前田俊文さん＝三重県志摩市で

竹橋の窓辺から　編集後記

年末恒例の「今年の漢字」が「密」と発表されました。まさにコロナ禍の一年を象徴する漢字です。今年スタートした「記事すご」もコロナ関連の記事が多かったように思います。

コロナ禍の生活では避けたい密ですが、新聞紙面は密そのもので、所狭しと文字や写真が密集しています。今年の年末年始は家で過ごされる方も多いかと思います。いつもより時間をかけて、緻「密」な取材と社会に「密」着した紙面をご覧いただければ幸いです。

（渡部竜之介）

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。